

平成26年度沖縄振興特別推進交付金事業（県分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	47	日系米国人戦争体験収録事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-4-(2)-ウ		
担当部課名	子ども生活福祉部 平和援護・男女参画課	事業実施(予定)年度	平成 26 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	アジア・太平洋地域の安定と平和に資する平和・人権協力外交の展開 Ⅲ-7		
事業内容	沖縄戦の歴史的教訓を正しく次代に伝え、恒久平和の樹立に寄与するため、沖縄戦に従軍した日系米国人等の戦争体験を収録、成果報告展等で発信し、さらに、日系米国人の戦争体験者を沖縄に招きシンポジウムを開催する。						
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他 ()						
予算額・執行額【単位:千円】		24年度	24年度(繰越)	25年度	25年度(繰越)	26年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	-	-	-	-	14,896
		(b) 予算現額	-	-	-	-	14,896
		(c) 増減額 (b-a)	-	-	-	-	0
		(d) 前年度繰越額	-	-	-	-	-
	A. 計 (b+d)		-	-	-	-	14,896
	B. 執行済額		-	-	-	-	14,145
	うち交付金充当額		-	-	-	-	11,316
	C. 次年度繰越額		-	-	-	-	0
	執行率 (%) (B/A)		-	-	-	-	95.0%
予算の状況の説明		執行率は95.0%であり、主に委託料の入札残(380千円)と旅費の節減(365千円)によるものである。					
活動目標(指標)及び達成状況	H26活動目標(指標)		達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度	
	日系米国人等戦争体験者の収録・編集件数	目標	-	-	15件		
		実績	-	-	20件		
	シンポジウムの実施 成果報告展開催	目標	-	-	1回 3ヶ所		
		実績	-	-	1回 4ヶ所		
達成状況説明	・ハワイでの戦争体験者の調査・収録において、当初予定の15人を上回る20人の証言を収録することができた。 ・沖縄県平和祈念資料館で開催したシンポジウムには約230名が来場し、また、成果報告展は当初、那覇空港、羽田空港、沖縄県平和祈念資料館の3カ所を予定していたが、JICA横浜でも開催することができ、シンポジウムも含めた入場者数は2千名余となった。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H26成果目標(指標)		基準値(〇〇年度)	24年度	25年度	26年度	目標値(〇〇年度)
	シンポジウムや成果報告展の入場者に対するアンケートで、平和に対する意識が高まったなどの評価が7割(70%)以上	目標	-	-	-	7割(70%)以上	-
		実績	-	-	-	8割7分(87%)	-
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	目標を達成することが出来た。シンポジウムや成果報告展の入場者約2千名余に対し、「改めて戦争、平和について考えるきっかけになったか」等のアンケート調査を行った結果、214人から回答を得ることが出来た。「平和について考えるきっかけになった」との回答は87%ではあったが、アンケートに協力して頂いた来場者のほとんどが当事業の展示に対して肯定的な評価を頂いた。					

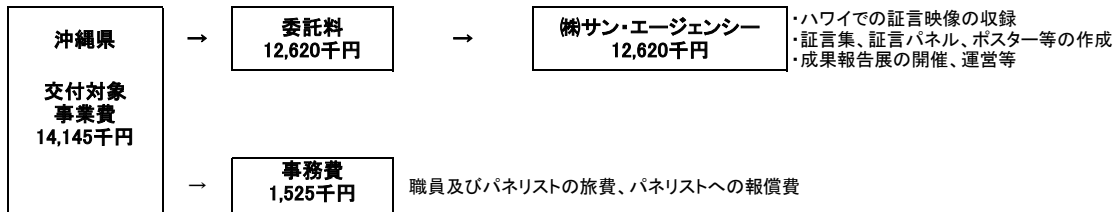
取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	シンポジウムや成果報告展の来場者への情報発信とともに、県内外の新聞、テレビにおいても大きく取り上げていただき、日系米国人の戦争体験を通して、悲惨な沖縄戦の歴史的教訓を内外に大きく発信することができた。	本事業で収録・編集した日系米国人戦争体験の証言映像等は県民共有の財産として、映像や証言集の公開及びDVDの貸出等により今後とも有効活用していく必要がある。

今後の取り組み方針

平成27年度から、館内で証言映像及び証言集を公開するとともに、証言映像DVDと展示パネルをセットにして、県内の学校や一般向けに貸し出しを行うなど、今後とも有効活用していく。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	うち交付金充当額	うち県負担金	うち市町村負担金	その他	交付対象外経費
14,145	14,145	11,316	2,829	0	0	0



資金の流 れ、費 目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
資金の流 れ、費 目・	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は競争入札により落札した企業であり、妥当であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模については、当初、入札残が3,000千円あったが、収録者を5人増やし、成果報告展も1カ所増やすことにより、事業規模を拡大することができ、妥当であった。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目・使途については、事業目的達成の観点から必要なものかどうかについて、当初の見積書の提出時及び精算時の書類等で確認し、適正であった。
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	